

## 米中時代の衰退大国・日本？



日本証券アナリスト協会 常務理事  
渥美 恭弘

「大国の興亡」は、誰にとっても極めて興味深いものだろう。私も、興亡論の名著の数々を読んできたが、いずれも誠に面白い。

今、世界の大国と言え、何と言っても、米国だ。しかし、どんどんと中国が近づいている。昨今の世界の大関心事のひとつは、「米中貿易戦争」だが、米国は、トランプ大統領の大統領選挙対策という目的だけで仕掛けているわけではない。経済面のみならず、ハイテク分野も含めた安全保障面や政治体制、人権などの価値観をめぐる世界の覇権争いが背景にある。トランプ政権が終わっても覇権争いは続いていくことは間違いない。新興パワーが既成パワーに対抗する際の覇権争い、すなわち、「トゥキディデスの罠」に入ってきた。「新冷戦」状態に入ったという見方もある。世界経済の米中による「デカップリング」（分断）が起こってくるという見方もある。強くなっていく非民主主義で国家資本主義の新興勢力と、一時に比べれば弱くはなっているものの、民主主義で伝統的資本主義の既成勢力、という対立構図だ。これから世界は、米中という超大国（Great Power）によるG2時代を迎えようとしていると思う。

中国の最近の成長・発展は目覚ましい。名目GDP(ドル建てベース)は、現在世界2位で、世界の約16%を占めている。今でも年率実質6%程度の成長を続けており、今後は減速するだろう（特に今年は新型肺炎の